

R

KANSAI
UNIVERSITY
NEWSLETTER

Man is a Thinking Reed.

Reed

No. 80

March, 2025

関西大学ニュースレター

発行日：2025年(令和7年)3月21日

発行：関西大学 総合企画室広報課

大阪府吹田市山手町3-3-35

〒564-8680 / TEL.06-6368-1121

www.kansai-u.ac.jp



■巻頭特集
大九 明子・映画監督／萩原 利久・俳優／芝井 敬司・関西大学理事長
●関西大学を舞台にした映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』4月25日公開

平凡な大学生の 苦悩と成長をリアルに描く

ジャルジャル福徳さんの小説が原作 多くの関大生もエキストラで参加

- 巻頭特集 — 1
- リーダーズ・ナウ — 7
卒業生 — 実業家・日活株式会社 社外取締役 杉山 全功 さん
映画監督 浅雄 望 さん
在学生 — 関大万博部
- 研究最前線 / Research Front Line — 13
長寿命で高速、省電力の記憶装置を目指す研究
新しい物理現象で、磁気メモリを開発する
システム理工学部 — 本多 周太 准教授
• Magnetic Memory Development Based on New Physical Phenomena
Faculty of Engineering Science — Associate Professor Syuta Honda
- トピックス [学内情報] — 17
関西大学協賛の「大阪マラソン2025」開催
関大生ランナーやボランティア、沿道応援に約500人が大活躍 ほか
- 社会貢献・連携事業 — 18
第29回関西大学先端科学技術シンポジウムを開催
フィールドを超越した最先端の研究成果を披露
- 関大ニュース — 19

■ 鼎談

◎ 関西大学を舞台にした映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』4月25日公開



平凡な大学生の苦悩と成長をリアルに描く

ジャルジャル福德さんの小説が原作
多くの関大生もエキストラで参加

大九 明子 ● 映画監督

萩原 利久 ● 俳優

芝井 敬司 ● 関西大学 理事長

関西大学卒業生で人気お笑いコンビ「ジャルジャル」の福德秀介さんによる同名の恋愛小説を原作とする映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』が4月25日に公開される。さえない毎日を送る大学生・小西徹が主人公の物語で、千里山キャンパスで撮影が行われた。公開を前に、脚本も手掛けた大九明子監督、主演を務めた萩原利久さんが、芝井敬司理事長と鼎談し、映画に込められた思いなどを語った。

◆千里山キャンパスと周辺地域がロケ地に

— 映画の4割近くが千里山キャンパスや周辺地域で撮影されたそうですね。大学や学生のリアルな姿をとらえているところが印象的でした。

芝井 原作が刊行されたときに拝読し、面白い小説だと思いました。恋愛小説仕立てですが、最後にどんでん返しもあるし、途中のプロセスもなかなか面白かった。それが映画でどのように再現されていくのかを楽しみにしていました。

映画を(試写で)鑑賞しましたが、一番のエッセンスともいえるところが特徴的に再現されていると感じました。逆に、原作の中では隠れていてあまり目立っていない部分も、大九監督がシナリオハンティング(脚本を書くための取材)をする中で意味付けをしたり、重みを考えたりしていることがよく分かりました。

大九 すごく丁寧に映画をご覧いただいとて素晴らしいです。おっしゃる通り、小説そのものを再現するというよりは小説を自分の中で消化し、感じた思いを増幅させながら作っていきました。原作を読まれているファンの方がどう思うのかという心配もあったので、小説を読まれた上でそのような感想をいただけるのは本当に励みになります。

— 萩原さんは、今回の関西大学での撮影で印象に残っていることはありますか。

萩原 僕は大学生生活の経験が無いので、多くの時間をキャンパス内で撮影させてもらったこと自体がすごく新鮮でした。学園ものの映画やドラマの撮影で、特定の教室を使うことは今までにもありましたが、この作品では教室を移動する場面もあったりして、大学生の日常をそのまま切り取ったシーンが多かったのかなと思います。広い大学内をぐるぐると歩き回りながら、実際に学生生活を送っている方がいる中で撮影させてもらったので、曜日によって学生の多さが違うことにも気づきました。時々「自分は関西大学の学生なのでは？」と錯覚するような感じでした。

芝井 人生長いですから、いつかぜひ入学を……。

萩原 もしかしたらもしかするかもしれないですけど(笑)。遠くでにぎやかな学生の声が聞こえてくる環境での撮影も思い出深いですし、撮影中は大学生活のリアルな姿を常にまもっていたのかなと思います。

— エキストラの関大生も多く参加されていたそうですね。

大九 映画の企画が動き出してから、どの時期に大学で撮影するかということを検討しました。授業がしっかりある時期がいいのか、それとも春休みや夏休みの期間がいいのか。関西大学さんが全面協力すると言ってくださいましたが、やはり学生ファーストで考えて休みの日に撮影することにしました。

ただ、できれば本物の学生さんたちには、ご自身の思い出作りの一環として楽しんで参加してもらえよう、エキストラとしての協力をお願いしました。結果的にたくさんの若い人が学生役として参加してくれました。早朝、スタッフが集合場所を案内する看板を持って待っていると、本当に登校風景みたいにエキストラさんたちが集合してくるんです。それがうれしくて一人一人に「ありがとうございます」と言いたい気持ちになりました。



©2025「今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は」製作委員会



◀映画化にあたり文庫本が刊行された。「関西限定版」として、本学での映画シーンを散りばめたデザインのもの関西大学生協などで販売されている

私が大学生だった頃よりも、全国的に大学自体がきれいに整備されていると思いますが、実際に中に入ってみると私の学生時代と変わらない風景もありました。建物の中で演劇部の学生が発声練習をしているのを見たりすると、すごく温かい気持ちになりました。芝井 昔は大学に顔を出さない学生が結構いましたね。世界を放浪する学生もいれば、アルバイトに注力していて試験の直前に慌てて来るような学生もいました。今は、やんちゃな学生は少なくなったように感じますが、本質から変わっているかというところでもない。映画の中で描かれているように、4年間の大学生活というのは若者が苦悩しながらも成長していく時期で、大学とはそういう場所でもあります。

◆友達の多さが価値の高さではない

— 萩原さんが演じた大学生・小西と学内唯一の友人・山根との友情が描かれています。

萩原 友達が一人数いないという、なんとなくネガティブな印象を持たれてしまうかもしれませんが、そうでもない僕は感じます。小西は大人気で話すタイプではありませんが、広い大学の中でちゃんと自分が落ち着ける場所というか、マイスポットを持っている。

■鼎談



萩原 利久—はぎわら りく

俳優。1999年埼玉生まれ。2008年にデビュー。ドラマ「美しい彼」(2021年)で注目を浴び、以降、映画・ドラマに多数出演。近年の主な出演作に、映画「劇場版美しい彼～eternal～」(2023年)、「ミステリと言う勿れ」(2023年)、「朽ちないサクラ」(2024年)、「キングダム大將軍の帰還」(2024年)、「世界征服やめた」(2025年)、ドラマ「月読くんの禁断お夜食」(2023年)、「真夏のシンデレラ」(2023年)、「たとえあなたを忘れても」(2023年)、「めぐる未来」(2024年)、「降り積もれ孤独な死よ」(2024年)、「リラの花咲くけものみち」(2025年)など。2025年には映画「花緑青が明ける日に」の公開を控えている。

僕はそもそも役に限らず、友達は「量より質」だと思っています。プライベートではいろんなものを共有したり、深い話ができる友達に恵まれています。映画では数こそ「一人」ではありませんけど、ちゃんと一人いる。だからこそ、彼(小西)も心の底の部分では孤独とは感じていないはず。多分、心の温度という意味では、決して冷え切っているわけではない。

大九 今話を聞いていると、利久くんはやっぱり小西よりずっと大人で、成熟しています。小西は決して孤独ではないんです。ただ、どうしても人と比べたり、人の目ばかり気にしたりしている。その恐怖から逃れられない。

でも、これってほとんどの若者がそうだと思うんですね。「人からどう見られるか」ということがとても恐怖で、それこそが重

映画には人の数だけ見方があると思いますが、まずは純粹に楽しんで見てもらえたらうれしいです。その上で、見終わった後に何かを考えるきっかけになれば、よりうれしいです。

要だと縛られてしまっている。そういったところから一つ自由になっているのが(河合優実さんが演じた大学生の)桜田花。「私なんか友達一人もいませんけど」という人に出会って視点がガラッと変わっていく少年の物語ですが、小西のぜいたくな悩みみたいなところを分かって演じてくれていたことを聞けてうれしいです。一つだけ絶対に言っておきたいのは、友達が一人いなくてもいいんです。「友達が多い方が価値が高い」という考え方は一度捨てたほうが良いと思います。特に若者はそこにとらわれすぎて自分を卑下してしまいがちです。でも「友達がいない」ということを悪ととらえないでほしいと思います。

今作に限らず、ずっと私がやっていることというのは、社会で当たり前と思われている価値観を一度疑うことです。小西はとてもつらそうに生きているけど、大人の目から見たら「そんなことないよ」ということを汲み取ってほしいと思って作りました。

——大九監督は「孤独な女性」を描くことで定評があります。今作は主人公が男性でしたが、意識されたことはありますか。

大九 全くないですね。短編では男性主人公のものも撮っていたりしたので。でも、もしかすると私はどの主人公にもちょっと冷たいかもしれません。例えば今作だと「不幸ぶっているけど、あなたは十分幸せだよ」という気持ちがどこかにあります。

萩原 小西の一つ一つの行動に関して歯がゆさを感じることはありました。そこが映画での面白さでもあります。

小西と同じ10代から20代前半にかけての時期を振り返ってみると「なんで悩んでいたんだろう」と思えることもたくさんありますし、1年ごとに物事の見え方が違ったように思います。小西を感じる歯がゆさは僕自身も演じながら「こう言うだけで全然違うのに」と思う場面もありました。

◆若者に伝えたい「君は鋭かれ！」

——映画では関西大学初の女子学生・北村兼子のボイスメッセージが印象的に使われていました。

芝井 北村兼子さんはすごい人です。高等教育を受けることが女性にとって閉ざされていた時代に大学で学び、大阪朝日新聞でジャーナリストとして活動しました。シナリオハンティングで大九監督が北村兼子の資料展示に目を付けたというのはありがたいです。

ただ、前後のコンテキストを含めてどのような意図で監督が(そのシーンを)配置したのか、どう受け止めたら良いのかは自分の課題として残っています。映像の中にはいろんな秘密があって、その全てを受け止めることはできませんが、それに気付くことと、自分の頭でその意味を考えることを同時にすることが鑑賞する側の責務かなと思いつつ見えています。



北村 兼子—きたむら かねこ
本学初の女子学生、ジャーナリスト。1903年大阪市生まれ。梅田高等女学校(現大手前高校)を経て、1923年大阪外国語学校(現大阪大学外国語学部)を卒業後、関西大学法学部法律科に聴講生として入学し、1926年に全科目の聴講修了。在学中の1925年に朝日新聞社に入社し、記者の傍ら文筆活動を続けるが、文筆活動に専念するため1927年同社を退社。1928年汎太平洋婦人会議(ホルルル)に日本の政治部委員として参加。1929年万国婦人参政権大会(ベルリン)に日本代表として出席。1931年に27歳で逝去。2025年2月、関西大学から「特別卒業証書」が贈呈された。著書に、「ひげ」「怪貞操」「婦人記者鹿業記」「子は宝なりや」「大空に飛ぶ」などがある。

大九 北村兼子さんが約100年前に言っていたジェンダーギャップの問題はいまだに何も変わっていないんですね。シナリオハンティングで「いつまで我慢していればいいんだ、もう怒ってもいいだろう」という内容のメッセージを読む兼子さんの声を聞いた時、思わず動けなくなってしまいました。

国際映画祭という場所で映画を見てもらうようになってから10年ほど経ちますが、映画を作っている人間としてこういうものに出合ったら脈絡とかそういうことはさておき「これは絶対に私が残さなきゃダメ」と、作品に盛り込みました。怒りにも似た気持ちで描いたところがある。女性たちに向かって「君は鋭かれ!」と言った北村兼子さんの言葉、性別関係なく現代の若者に私からも言いたいです。

萩原 映画のとらえ方は必ずしも一緒ではなく、一人一人注目するポイントも、引っ掛かる部分も変わってくるはず。先ほど監督がおっしゃった小西のぜいたくな悩みも、リアルに同じようなことを感じている人は共感するかもしれませんし、「なんじゃそれは」と感じる人がいてもおかしくはない。

映画には人の数だけ見方があると思いますが、まずは純粹に楽しんで見てもらえたらうれしいです。その上で、見終わった後に何かを考えるきっかけになれば、よりうれしいです。



映画の中で描かれているように、4年間の大学生活というのは、若者が苦悩しながらも成長していく時期で、大学とはそういう場所でもあります。



芝井 敬司—しばい けいじ
学校法人関西大学第22代理事長。1956年大阪市生まれ。1978年京都大学文学部史学科(西洋史)卒業。1981年京都大学大学院文学研究科博士課程後期中途退学。1984年関西大学に着任。1994年文学部教授、2002年文学部長、2006年副学長、2016年学長を歴任。2020年より現職。学外の主な役職に、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構評議員、公益財団法人私立大学退職金財団評議員、一般社団法人大学スポーツ協会理事など。

ずっと私がやっていることというのは、社会で当たり前前と思われている価値観を一度疑うことです。



大九 明子—おおく あきこ
映画監督、脚本家。横浜市生まれ。1997年に映画美術学校第一期生となり、「恋するマドリ」(2007年)で商業映画監督デビュー。2017年「勝手にふるえてろ」で、第30回東京国際映画祭コンペティション部門・観客賞、第27回日本映画プロフェッショナル大賞・作品賞を受賞。「私をくいとめて」(2020年)が、第33回東京国際映画祭・TOKYOプレミア2020にて史上初2度目の観客賞、第30回日本映画批評家大賞・監督賞を受賞。TVドラマでも、NHK「家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった」(2023年)が、第121回ザテレビジョンドラマアカデミー賞・最優秀監督賞等を受賞。

■映画紹介

Introduction : 映画情報

『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』

映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』が4月25日から全国で公開されることが決定しました。大阪ではTOHOシネマズなんば、テアトル梅田、109シネマズ大阪エキスポシティ、東京ではTOHOシネマズ日本橋、テアトル新宿、名古屋ではミッドランドスクエアシネマなどの映画館で上映を予定しています。本学卒業生の漫才コンビ「ジャルジャル」の福徳秀介さんの小説を原作に、関西大学千里山キャンパスが舞台となった映画がいよいよ公開されます。

主人公の関大生、小西徹を演じるのはドラマ『美しい彼』(2021年)で注目された萩原利久さん。小西が恋するお団子ヘアの関大生、桜田花を演じたのは、ドラマ『不適切にもほどがある!』や、映画『あんのこと』、『ナミビアの砂漠』など話題作への出演が続く河合優実さん。その他には伊東蒼さん、黒崎煌代さん、古田新太さんらが出演しています。監督は大九明子さんで、脚本も手掛けました。

千里山キャンパスや周辺地域を主なロケ地として2024年4月から撮影が行われ、多くの学生や教職員がエキストラとして出演するなど、大学としても全面的に撮影に協力しました。正門や法文坂、図書館、博物館などのキャンパス風景や、授業の様子がリアルに再現されていて、学生にとっては馴染みのある風景が美しい映像となり、スクリーンに広がります。若者たちの出会いや成長を描いた物語を、ぜひ劇場でご覧ください!

■劇場情報:上映館が続々と決定中!

- 近畿地区 MOVIX京都/TOHOシネマズなんば/テアトル梅田/MOVIX堺/MOVIX八尾/109シネマズ大阪エキスポシティ/シネ・リーブル神戸
- 関東地区 TOHOシネマズ日本橋/テアトル新宿/ヒューマントラストシネマ渋谷/シネ・リーブル池袋/kino cinema 立川高島屋 S.C.館/横浜ブルク13/kino cinema 横浜みなとみらい/109シネマズ川崎/小田原コロナシネマワールド
- 北海道地区 サツゲキ(札幌)/ディノシネマズ苫小牧
- 東北地区 フォーラム盛岡/フォーラム仙台/フォーラム山形/フォーラム福島
- 中部地区 T・ジョイ長岡/福井コロナシネマワールド/長野グランドシネマズ/上田映劇/シネシティ ザート(静岡)/CINEMA e-ra(浜松)/シネマサンシャイン沼津/ミッドランドスクエアシネマ(名古屋)/センチュリーシネマ(名古屋)/安城コロナシネマワールド/ミッドランドシネマ名古屋空港/伊勢進富座本館
- 中国・四国地区 福山コロナシネマワールド/シネマサンシャイン重信/キネマ ミュージアム(高知)
- 九州・沖縄地区 T・ジョイ久留米/109シネマズ佐賀/ワンダーアティックシネマ(宮崎)/ミハマプレックス(沖縄)…… and more

詳しくは公式ウェブサイトを見てください! Check!



©2025『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』製作委員会

●第37回東京国際映画祭でも好評

本作品は、2024年10月28日から11月6日まで開催された第37回東京国際映画祭のコンペティション部門に出品されました。

3回の上映チケットは発売初日に完売。人気俳優の好演が話題で、SNSでも映画を評価する声が高まりました。また上映に伴って行われた舞台あいさつでは、俳優陣が関西大学を中心に行われた撮影について語り、大きな声援と拍手に包まれました。



▲東京国際映画祭での出演者たち ©2025『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』製作委員会

Movie Scenes



(写真:©2025『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』製作委員会)

Comment

キャストの2人からのコメント

●萩原 利久さん
関西大学はめちゃくちゃ良いところでした。こんなに学内で撮影させてもらえることはなかなか、ありがたかったです。学生の皆様にどんなふうに見てもらえるのかな、って思いながら、1か月撮影させていただきました。

●河合 優実さん
すごい広々としたキャンパスで、桜もきれいで、本物の関大生の皆さんの姿を毎日吸収しながら撮影できました。本当に良い学びの場だな、とクランクインしてすぐ思いました。ここで勉強すること、4年間過ごすこと、その時間はすごく貴重だ、とキラキラしている関大生の皆さんを見ながら思っていました。

●「今日空×関西大学 ロケ地マップ」を作成



▲関西大学学術研究会マス・コミュニケーション学研究部の学生たち

学術研究会マス・コミュニケーション学研究部の有志学生が中心となり、『今日空×関西大学 ロケ地マップ』を作成しました。試写を見た学生たちは、原作やエキストラ出演した学生の声なども参考にして、自分たちが紹介したいロケ地をピックアップしました。イラストやコメントを入れるなどの工夫を凝らし、さまざまなロケ地や映画の場面について紹介しています。

千里山キャンパスの正門、博物館、総合図書館、凜風館、第1学舎など学内のロケ地のほか、関大前商店会の店舗にも協力いただき、ケープコッド、フォーデュロン、といった飲食店、フタバボウル(ボウリング場)なども取り上げました。

ロケ地マップは学内各所で配布中。学内イベントや映画館などでも配布する予定です。

マップ制作にかかわった学生たちは「理想的な『聖地巡礼』ルートもマップ上で示しました。映画に出てくるキャンパスの風景などを楽しんでほしいという思いで作成したので、ぜひロケ地マップを手にとっていただき、映画の世界と関西大学の魅力を体感しに来てください!」とコメントしました。



▲今日空×関西大学 ロケ地マップ

●文学部学術講演会に大九監督が登場

12月3日に開催された文学部学術講演会に大九監督が登場しました。堀潤之教授が聞き手となり、学生と一般参加者を合わせた約170人の聴講者を前に映画撮影について語りました。

千里山キャンパス内での撮影に関しては、「大学の全面協力がとてもうれしく、『全部本物』で撮ることができました」と話し、原作で約5ページに及んでいる長台詞のシーンについては、「この作品の特徴の一つとなっているシーンなので、ワクワクする気持ちでカメラを2台用意して撮影に挑みました」と振り返りました。

また映画業界の働き方改革に関する質問に対しては、「日々のスケジュールを作成してそれに基づいて進めるなど、少しずつ改善してきました」などと説明。また、英語タイトルが原題と違う理由についての問い掛けには「良い質問ですね!」と反応し、本作品では「セレンディピティ」という言葉がキーワードになっていることについて丁寧に解説しました。

講演会終了後には大阪市内の映画館で関係者向けの試写会が行われ、撮影に協力した学生や映画研究会の部員らが参加。映画のラストシーンの作り方や音響効果の使い方などについて大九監督へ質問しました。学生らが監督を囲んで記念撮影する場面もあり、和やかな雰囲気の中で幕を閉じました。



LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [卒業生インタビュー]



**起業は
難しいことじゃない、
関大生の皆さんなら
必ずかなえられる!**

——学生ベンチャーへの参画から
“上場請負人”と呼ばれるまで

●実業家・日活株式会社 社外取締役
杉山 全功 さん —法学部 1988年卒業—

実業家、起業家、投資家……多様な肩書が並ぶが、「“プロの経営者”と呼ばれるのが、実績を認められた勲章のようでうれしい」と話すのは杉山全功さん。在学時は学生ベンチャーの先駆けとして当時一世を風靡した株式会社リョーマに所属、卒業後もさまざまな会社で社長や取締役を務め、多くの会社を上場させる手腕に“上場請負人”とも呼ばれている。学生の起業が増加する今の時代に、彼は何を思うのだろうか。

●学生ベンチャー参画が経営者への出発点

大学に入学した年、友人から当時流行っていたダンスパーティーの運営スタッフをしないかと誘われた。「なんだか面白そうだ」そんな軽い気持ちで手伝い始めたが、イベントを運営する楽しさを知り、自分たちの手でやってみようと、翌年には仲間たちと作ったサークルでイベントを開催。最初は赤字続きだったが、試行錯誤して回を重ねるうちにグングンと集客力も上がっていった。

世の中は好景気で、学生イベントにも企業がスポンサーになっていた時代だ。拙いながらも企画書を作り企業へ協賛依頼に回るうち、同様の活動をする他大学メンバーとも顔見知り。「その時に知り合ったのが、当時関西で名を馳せていた真田さん(KLab株式会社創業者の真田哲弥氏)たち。彼らが立ち上げた会社に誘ってくれて、二つ返事で加わりました」。その会社が学生ベンチャーの先駆け、株式会社リョーマだ。これが現在の道に進むきっかけとなった。

卒業後は民間企業に就職したが、2年後に退職。仲間とベンチャー企業を立ち上げるなどし、2004年にはそのつながりもあって株式会社ザッパラスの代表取締役に就任する。翌年に会社は東証マザーズへ上場、5年後には東証一部上場を果たした。同社代表取締役を退任後は株式会社enishの代表取締役に就任。こちらわずか2年半で東証一部上場へ導き、その手腕を知る業界では“上場請負人”と呼ばれることとなる。



▲2013年12月に東証一部上場を果たした株式会社enish

同社の代表取締役退任後も、ウォンテッドリー株式会社、akippa株式会社、株式会社ROXX、株式会社ACSL、株式会社Kaizen Platform、など、社外取締役や出資者としてかかわってきた企業は数え切れない。

●企業に薪をくべる役割の苦労は当たり前

企業からのアプローチが引きも切らない杉山さんだが、応える基準はあるのだろうか。「その企業に伸ばせる部分があるかどうかですね。それさえ分かれば、自分が何とかして薪をくべ火を起こせばいい。苦労があるのは大前提なので、そこは判断基準にはなりません」。

起業家が0から1にしたものを90、100までもっていくことが自分の仕事だと話す杉山さん。そのなかで重要視するのは“再現性”だ。コンテンツやサービスが一つヒットすれば終了ではなく、

企業はgoing concern(継続企業の前提)でなければならない。ヒットしたものが消えても、次のヒット作や、より売れるサービス・事業が生まれ続けてこそ企業は持続的に成長できる。そこまで実現できてこそ自身の中にもようやく達成感が生まれるという。

「気負った気持ちはないですよ。これで日本を良くしようとか、そういう高尚な思いも全くない」と豪快に笑いながらも、「かかわる以上は結果にもこだわりたい、やるからには業績を上げ、上場するなどの結果を出したいんです」と力強く語る。

●映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』の配給会社としてマーケティングを担う

杉山さんが社外取締役を務める日活株式会社は、4月25日公開の関西大学を舞台にした映画『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』の配給会社として、マーケティングを担っている。卒業生の福德秀介さん(ジャルジャル)の小説を原作とした映画で、2024年4月から関西大学と周辺の商店街などで撮影が行われ、8月には初号試写会が行われた。

「観ているうちに時間の感覚を忘れて、あっという間の2時間でした。登場人物もそれぞれキャラクターが魅力的。良い映画でしたね」。杉山さんが通っていた当時は今よりもパンカラな校風だったというが、映画の中に次々と登場する関大前の飲食店やボウリング場など、当時利用していた場所を懐かしい思いで観たという。

●起業サポートが潤沢な今、挑戦すべき

関西大学のイノベーション創生センターでは起業家たちに講演してもらいイノベーターズトークを開催するなどさまざまな起業(ベンチャー)支援を行っている。また梅田キャンパスでは起業を後押しするスタートアップカフェ大阪なども展開している。

「昔はそういったものは何もなく。特に対面で起業家の話が聞けるのはうらやましいですね。いまスタートアップ界隈でもカンファレンスが盛んになっていて、実際に上場した人の話が直接聞ける機会も多くあります。現場の声を聞くことができるチャンスは積極的に活用した方が良いでしょう」。

起業する機会は広がりを見せ、チャレンジしやすい環境が整ってきたといえる。杉山さんは今と昔、起業するにあたってどのような変化を感じているのだろうか。「一番はインターネットの時代であることですね。検索すれば成功例も失敗例も世界規模のさまざまなケースが手に取るようになります。これだけでも若い世代の起業するノウハウや能力、センスが磨かれる。昔とはスタート時から得られるスキルが断然違います」。

また資金の面でも大きく変化した。昔は投資のシステムが一般に浸透していなかったため、友人や知人に借りて回る、銀行で借りるなら担保が必要、とハードルが高かった。そのため大きな事業には着手できず、起業自体が難しかったのだという。今はさまざまなVC(ベンチャーキャピタル)からクラウドファンディングまで資金調達の方法は多数あるのだ。「ただ勘違いしてほしくないのは、それは投資家から預かったお金だということ。リターンという義務とセットのものなのです。その責務を伴うお金だということは今も昔も変わらない」。

杉山さんが起業を目指す若者に必ず伝えているアドバイスがある。「できれば一度就職して組織を経験してはどうか。雇用される側を身をもって体験することは非常に有意義で、起業する時にも発想力が広がるし、後々必ず生きてきます。僕も新卒で民間企業に一度就職していますが、今でも貴重な時間だったと思っていますよ」。

まもなく60歳を迎える杉山さんだが、今後は若い世代の成長に貢献したいと考えている。現在、社外役員を務める会社の一つも、学生で起業した社長が社員たちを率いているのだそう。「その会社がもうすぐ上場するんです」とうれしそうに教えてくれた。自分の息子のような年齢の若者たちの頑張りを見ていると、こちらまで元気になると顔をほころばせた。

「起業は皆さんが思うほど敷居が高いものじゃない。僕がリョーマにいた頃は、周囲がみんな上場企業の社長を目指していたから、特別なことという意識さえなかった。それでいいんですよ。僕ができるぐらいなんだから、いま関大で起業を目指している皆さんも絶対できます!」

できれば一度就職して組織を経験してはどうかと。雇用される側を身をもって体験することは非常に有意義で、起業する時にも発想力が広がるし、後々必ず生きてきます。



杉山 全功—すぎやま まさのり
■1965年大阪府生まれ。1988年法学部卒業。在学中から学生ベンチャーの株式会社リョーマに所属。卒業後は民間企業を経て、株式会社ダイヤル・キュー・ネットワークを立ち上げ取締役を務めた。その後株式会社ザッパラスや株式会社enishを代表取締役社長として東証一部上場へ導く。現在は日活株式会社をはじめ、株式会社ROXX、akippa株式会社などの社外取締役を務める傍ら、エンジェル投資家としてベンチャー経営者の育成にも取り組んでいる。

LEADERS NOW!



●自身のメッセージを映像で届ける仕事

幼い頃から両親と映画館へ足を運んだり、テレビで放映される映画に胸を躍らせていたという浅雄さん。自身も映画の道に進みたいと心動かされたのは高校生の時。

「主にSFやアクションといった娯楽作品が好きでよく観ていましたが、進路を決める時期にボスニア・ヘルツェゴビナの紛争を描いた反戦映画『ノー・マンズ・ランド』を観たんです。映画の持つ表現力、観る人にメッセージを訴え掛ける力に改めて感銘を受けました。」

自分の考えや訴えを表現できる映画監督という仕事にაცოგაれ、自分も撮ってみたいと自然に思うようになった。そんな浅雄さんに両親が勧めてくれたのは関西大学文学部の映像文化専修。映画を学べる！と迷わず受験し、夢への一步を踏み出した。

大学時代は熱心に授業へ出席して多種多様な映画を鑑賞。先人たちの作品に触れて、そのテーマや作家性を分析することで、掘り下げて観ることができるようになり、視野も広がられたという。また「文化会映画研究部」と「同好会キネマちゃんねる」を掛け持ちして映画を撮りながら、学外では梅田にあるミニシアターで映写技師のアルバイトをこなし、帰宅後もレンタルビデオ鑑賞、と映画中心の日々を送った。

やがて卒業後の進路を考える時期がやって来たが、映画会社に就職して助監督を経て監督になる、という約束された道は存在しないと知った。フリーの助監督をしながら、自主制作映画をつくり続ける道を選ぶべきか迷った。

その際、「社会経験が無いまま



▲学生時代のアルバイトは映写技師

可能性を妨げる他者の言葉に惑わされず、 自志を貫き続ければ 道は拓ける

——一人の映画人として
母校に立つことができた誇り

●映画監督

浅雄 望さん 一文学部 2010年卒業

学生時代は授業で映画を学ぶ傍ら、映画サークルでの活動や映写技師のアルバイトなど朝から晩まで映画漬けの日々を送ったという浅雄望さん。卒業後もこだわり続ける自身の映画づくりと並行して、有名な監督の作品にも携わってきた。そして今回、映画制作スタッフの一人として母校、関西大学のキャンパスへ戻ってくる日が訪れた。

映画の世界に飛び込んでいいのか? という疑問が湧いた浅雄さん。「世の中にはいろんな仕事があって、いろんなところで頑張っている人たちがいる。いつか自分が、映画の現場では出会えない人たちの生活を描くときに、何も知らないまま描くのは浅すぎるし、もっと広い視野を持ちたいと思いました。」

そんな思いから、卒業後は映画とは無関係の仕事に就いた。もちろん映画から完全に離れることはなく、平日はサラリーマン、休日は映画の現場でフリーの助監督として活動する二重生活を始めた。

●カメラ越しに見た母校の美しさ

大学院修了後にお世話になった監督の一人が大九明子監督。初めて参加したプロの現場で、映画の撮影現場そのものの楽しさを体感した。創意工夫によって映画がどんどん面白くなっていく過程を肌で感じたことで、やはり自分の監督作品を撮りたいという気持ちが強くなった。

以降、大九監督には何度も声を掛けてもらい、今回も監督が手掛けた作品のメイキング監督を任せられることになった。

その映画は4月25日公開、関西大学を舞台にした『今日の空が一番好き、とまだ言えない僕は』。同じく関西大学出身、ジャルジャル福徳秀介さんの小説家デビュー作品の映画化となる。ロケ地はもちろん関西大学のキャンパスや周辺地域だ。

今回、浅雄さんはメイキング監督として参加し、監督と役者たちのやり取りなど撮影の裏側の様子をカメラに収める役割を務めた。「映画のスタッフとしてキャンパスに戻って来られるとは全く想像していなかった。なんだか誇らしい気持ちがあって、エキストラ出演された先生方に「私、卒業生です！」ってやたらとアピールしてしまいました(笑)」。



▲浅雄さんの初長編映画『ミュージスは溺れない』の撮影風景



自分が毎日のように通った場所、あんなに見慣れた風景も、カメラ越しに見るとすべてが新鮮に感じられた。一列に並ぶ部活動の看板や正門前の風景、学生たちの混沌とした雰囲気まで、普段見ていた景色とは少し違う。美しい映像に仕上がった本編は胸に来るものがあったという。

「在学生の方々にとっても、卒業生の方々にとっても、よく知っている場所が映画の舞台となってスクリーンで観られるのは貴重な体験だと思います。ぜひ劇場で、その優越感に浸りながら(笑)楽しんでもらいたいですね。」

●マイノリティにもスポットを当てて

助監督などスタッフとして多くの作品に携わっている浅雄さんだが、自身が手掛けた監督作品も既に世に送り出している。短編、中編作品の他、初長編映画『ミュージスは溺れない』では、新人監督の登竜門とされている二つの映画祭でグランプリに輝いた他、観客賞など計6冠を獲得し大きな支持を得た。

この作品の主人公は、恋愛感情が分からない女の子だ。撮影前には周囲から「そんな子はいない」「感情移入できないのでは」と指摘された人物像。恋愛をしたことが無い、恋愛に興味が無い、恋愛をすることに怖気づく子などこの世にいないとの意見を聞き、逆に「これは撮らないと！」と奮い立った。

そして完成した映画が公開されると、「主人公の気持ちが分かります」という声がたくさん届いたそう。「私は社会の中でいないものとされている人たちに、ちゃんとスポットが当たる映画を撮りたい。自分が気付かなかった人の悩みや苦しみにも、できる限り寄り添いながら、描いていきたいです」。

●いつか出身地への思いを込めた反戦映画を

さらに将来いつか撮りたいと心に決めているのは反戦を訴える映画。思い返せば映画監督を目指したきっかけも反戦映画だった。そして何より自身が原爆を投下された街・広島出身で、戦争の記憶を語ってくれる方が身近にいる環境で育ったことも大きいと話す。「自分がメッセージを発する立場になれたのなら、広島のこととは避けて通れない。いつか反戦のメッセージを届けられる作品をつくったら本望です」。

また映画監督などを目指して映像業界を選んだ人たちが、「この業界に入ってよかった」と思えるような環境を、業界全体が作っていくべきではないか、と話す。「労働環境やハラスメントの問題、

マイノリティ表象に関する課題なども、現場単位でなく業界全体で改善を図っていかれたら。良い作品をつくるためにも、一人一人がより気持ち良く仕事ができるよう、みんなが声を上げやすい環境づくりを心掛けていきたい」。映像業界の発展にも夢は膨らむ。

最後に後輩たちへ力強いエールを送る。「私はずっと、君には映画の才能が無いからあきらめた方がいい、と言われ続けてきました。でも、あきらめられずに続けていたら、時間はかかったけど映画も撮れたし、今は新人ながら『監督です』と言えるようになりました。『才能が無い』なんて他人の言葉はただの言葉。映画づくりを目指す人も、他のことを目指す人も、他人のそういう言葉に左右されないでほしい。本当にやりたい気持ちがあるなら、挑戦してもいい。続けていれば、きっと何かにつながります」。



私は社会の中でいないものとされている人たちに、ちゃんとスポットが当たる映画を撮りたい。

浅雄 望 —あさお のぞみ

1987年、広島県生まれ。関西大学文学部を卒業後、立教大学大学院を修了。関西大学在学中に映写技師のアルバイトをしながら映画づくりを開始し、卒業後は助監督などで映画やCM、テレビドラマの現場にも携わる。監督作品には『怪獣失格』、『躍りだすからだ』、WOWOW『ああ、ラブホテル ～秘密～』第三話などがあり、初長編映画『ミュージスは溺れない』は、TAMA NEW WAVE、田辺・弁慶映画祭の両映画祭でグランプリに輝いた他、観客賞など計6冠を獲得した。

LEADERS NOW!

■リーダーズ・ナウ [在学生インタビュー]



▲関大万博フェスタチームのメンバー:写真左から北村さん、川上さん(リーダー)、黒木さん



▲決起集会



学生ならではの視点を生かし、大阪・関西万博の魅力を“関大万博部”が発信

——「万博の主役は関大生だ！」学生主体で盛り上げる

●関大万博部

- 社会学部 1年次生
川上 拓真さん (愛媛県立西条高等学校)
- 社会学部 1年次生
北村 胡音さん (大阪府立三島高等学校)
- 法学部 1年次生
黒木 望未さん (岡山県立岡山朝日高等学校)

1970年に大阪府吹田市で開催されたアジア初の日本万国博覧会、通称Expo'70からはや55年。2025年ついに万博が大阪の地へ帰ってくる。2005年の愛・地球博からは20年ぶりの日本開催となる大阪・関西万博だ。4月13日の開幕が目前に迫る中、万博の面白さや魅力を学生目線で伝える「関大万博部」の活動も一気に活気づいている。次々に迎える新たなイベントへ向けて日々忙しく準備に奔走する彼らに話を聞いた。

●大阪・関西万博のワクワク感を地元・関大から発信

いよいよ4月に開幕する大阪・関西万博の開催に向けて、本学では2年前に「関大万博部」なる学生コミュニティが発足した。「地元大阪で行われる万博の面白さやワクワク感を、関大から発信していく学生団体です。9つのプロジェクトに分かれているいろいろな活動を行っています」と紹介してくれたのは、関大万博フェスタチームのリーダーを務める川上さん。

関大万博部の中でイベントを企画し、他チームのまとめ役を担当するのが関大万博フェスタチーム。チームメンバー17人は全員が1年次生だが、入部した理由はさまざまだ。

「中学校と生徒会に所属していて、自分たちで体育祭や文化祭を運営することの楽しさを実感しました。同じように自分たちの力でさまざまなイベントを考えて形にしていこうという関大万博部がとて楽しそうに思えたので、ぜひ参加したくて」(黒木さん)

「私は以前から万博にとっても興味があり、なんとしてでも万博にかかわりたいという思いを持っていましたが、ボランティアは

抽選になる可能性がありました。そんな中、関大万博部があると知り、すぐに入部を決めました」(北村さん)

●初イベントの成功に充実感と手応え

2024年12月15日に千里山キャンパスで開催された『まちFUNまつり in 関西大学2024』の中では、自分たちで一から企画考案した初イベントの「関大万博プレフェスタ」を行った。

これからの未来を担っていく小さな子どもたちが、自ら主体的に動けるようなイベントとして地域の住民を対象に実施。「万博謎解きクイズラリー」と題し、関大万博部内の各チームが考えたブースをクイズに挑戦しながら巡るという企画を作り上げ、イベント全体の運営を行った。

在学中の留学生たちが自国の文化や食べ物などを紹介する「ミニ外国パビリオン」や、子どもがおすすめのジュースを提供しながら大人の悩み相談を受ける「こどもBar」のほか、クラフトコーラを題材にしたワークショップや非常食アレンジ弁当の無料試食など、普段の活動を生かしたユニークなブースを各所に設け、来場者は7,500人を超え大成功。

「クイズラリーのポイント振り分けやブースの配置など、全体設計を考えるには他チームの内容や進捗をすべて把握する必要がありました。これが思いの外苦労しましたね」(川上さん)、「自分が所属するフェスタチームメンバーのことだけでなく、140人いる関大万博部全体のシフトなどを調整するのが大変でした」(黒木さん)と初イベントだっただけに苦心したところや反省点も多かった。

しかしそれ以上に、当日はたくさんの子どもの無邪気な笑顔に数多く触れることができ、やってよかった！楽しかった！とイベント運営の醍醐味を感じられたようだ。

なかでも、クイズラリーには手応えも。「ゲーム感覚で遊びながら万博や私たちの活動を知ってもらえるとても良い機会になったと思います。今後も楽しみながら理解を深めてもらえる企画を、もっと考えられたらいいなとやる気が出ました」(北村さん)



▲こどもBar



▲ミニ外国パビリオン



▲万博謎解きクイズラリー

●まだまだ盛り上げる『関大万博Weeks』

大阪・関西万博は4月13日に開幕するが、万博部が手掛ける「関大版万博」イベント『関大万博Weeks』も、今後さまざまななかたちで意欲的に展開される。

メインイベントとなる「関大万博フェスタ」は、6月30日から7月6日にかけて千里山キャンパスで開催する予定だ。そのほか



▲まちFUNまつり in 関西大学2024 特別企画「関大万博プレフェスタ」の参加者

にも、4月6日の校友イベントや5月と6月に開催される高槻・高槻ミュージック・堺キャンパスでの各キャンパス祭などにも万博PRブースを出展。万博会期中は毎月のようにイベントを計画し、関大生を中心に、教職員、地域住民など、より多くの人々に万博のワクワクを届けていく。

「学生が興味を持てる内容を考えることが、難しくもあり逆に楽しみでもあります。同じ学生だからできること、学生の視点で面白いことを考えていきたい。万博部の活動で学んだり吸収したものを発揮できるよう頑張りたいですね」(黒木さん)。

日々やりがいを感じられる万博部の活動を通じて彼らの世界は格段に広がり、有意義な日々を送ることができているようだ。「最初は僕の活動にあまり興味が無さそうだった両親が、今では「今日は何したん?」「なんか万博のことやったんやろ?」と徐々に万博に興味を持ち始めたんです。前売りチケットももう買ったと(笑)。自分が参加する活動で、こうやって周囲に万博への期待や良さが伝わっているんだなとやりがいを感じたし、うれしくなりました」(川上さん)

「万博にかかわっている方々にお会いできて、未来への熱い思いを知ることができたのもこの活動だったからこそ。シンプルに万博とかかわりたいと思って入部したけれど、それ以上のことを学べる機会がこれまでに数多くありました。そのすべてが今後のイベントに役立てられると思います」(北村さん)

大阪・関西万博はもちろんのこと、関大万博部が手掛ける今後のイベントにも期待が高まる。

関大万博部

■2025年大阪・関西万博に向け、2023年に発足した大学公認の学生コミュニティ「関大万博部」。9つのプロジェクトに分かれており、所属する学生はおよそ140人。「私たちがやらなきゃ誰がやる!」「1人でも多くの人に万博のワクワク感を伝えたい!」。そんな思いを持つ関大生たちが仲間となってSDGs推進など日々の学びをベースとし、それぞれが「輝く」ことのできるユニークな企画づくりに挑戦中。絵文字だけを使ったコミュニケーションツールで言語の壁を乗り越える「エモジケーション」プロジェクトや、賞味期限が迫る非常食で防災啓発に取り組み「非常食アレンジ弁当」プロジェクト、世界中で愛されるクラフトコーラやビールで人と人のつながりを生む「開杯」プロジェクトなど、数々の企画を推進し、万博開催期間中のパビリオンへの参画や学内外での独自の万博機運醸成イベントの実施などを目標に日々活動している。

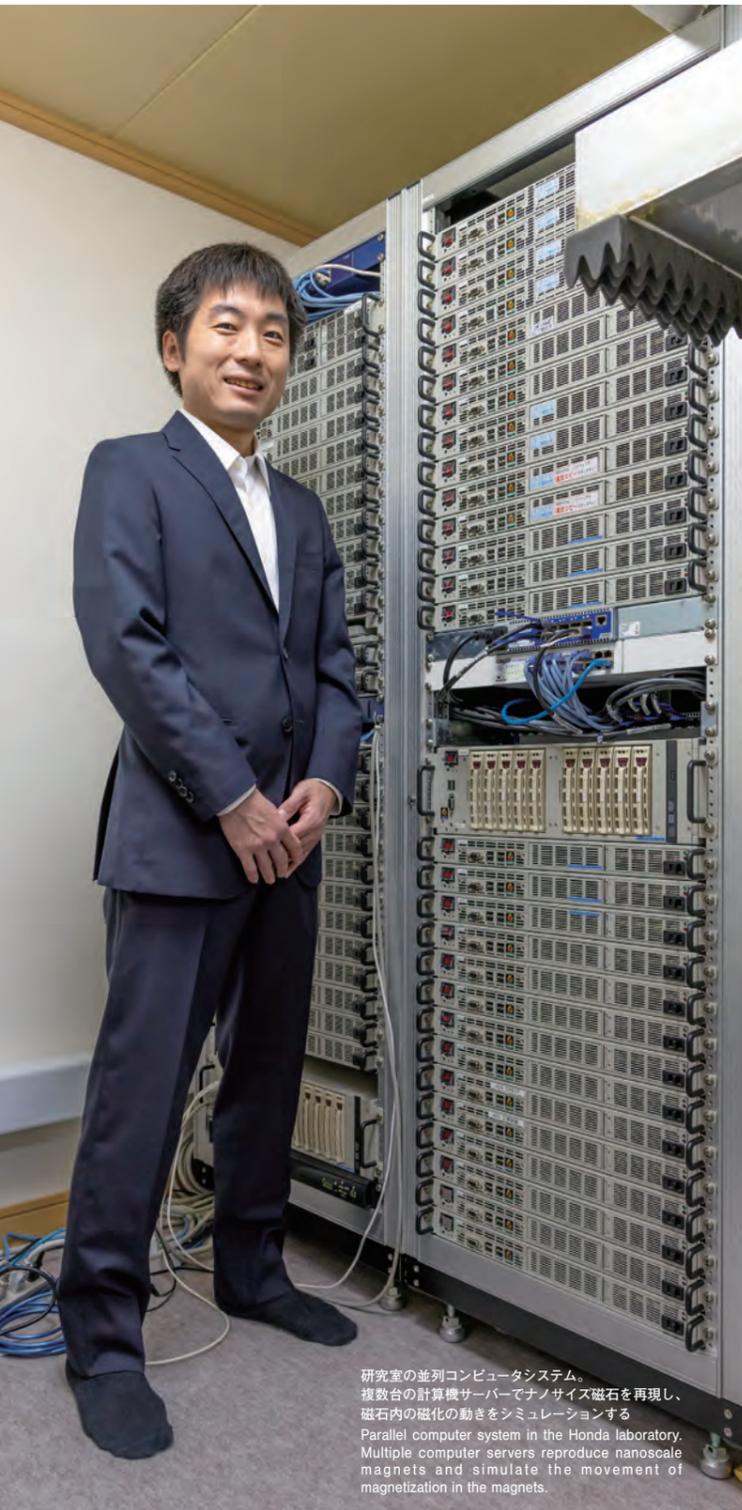


▲関大万博部 Instagram



▲関大万博部 ウェブサイト

長寿命で高速、省電力の記憶装置を目指す研究 • Research aiming for storage devices having a long life, high speed, and low electric power consumption



研究室の並列コンピュータシステム。複数台の計算機サーバーでナノサイズ磁石を再現し、磁石内の磁化の動きをシミュレーションする。Parallel computer system in the Honda laboratory. Multiple computer servers reproduce nanoscale magnets and simulate the movement of magnetization in the magnets.

新しい物理現象で、 磁気メモリを開発する

省電力化が可能な方法を提案

Magnetic Memory Development Based on New Physical Phenomena

Proposal of a method that can save electric power

●システム工学部 本多 周太 准教授
Faculty of Engineering Science
— Associate Professor *Syuta Honda*

スマートフォンやパソコンを使っていると、気になるのが記憶装置(メモリ)の容量。メモリの小型化と大容量化が進み、高画質の動画や写真などデータサイズの大きいファイルも手軽に保存できるようになった。しかし、現在主流のフラッシュメモリは性能向上に限界が見え始めているとされる。そこで注目を集めるのが長寿命で高速、省電力が期待される磁気メモリだ。システム工学部の本多周太准教授は、シンプルな構造で実用化が可能な磁気メモリを提案し、学术界と産業界から高い評価を得ている。

When using smartphones and PCs, the capacity of the storage device (memory) is often a concern. Memories have made advancements in size reduction and capacity increase, making it possible to easily save large-size data files such as high-resolution video images and photographs. However, flash memories, which are now being predominantly used, are said to be approaching the limits of their performance improvement. Due to this situation, magnetic memories are gaining attention because they are expected to have a long life, high speed, and low electric power consumption. Syuta Honda, Associate Professor of Faculty of Engineering Science, has proposed a magnetic memory having a feasible and simple structure. His proposal has received a high evaluation from the academic and industrial sectors.

電子デバイスを数値シミュレーションで設計

— 所属研究室ではどのような研究をしていますか。

私が所属する『物性理論研究室』では、ナノサイズの電子材料を使ったデバイスなどを、数値計算や数値シミュレーターを使って開発しています。デバイスとは、スマートフォンなどに使われるメモリやトランジスタといった電子部品のことです。

主にテーマとしているのが、ナノサイズの磁石です。どのように材料を変えたら強力な磁石ができるか、またその磁石を使って新しい電子デバイスを作れるかなどについて研究しています。

磁石を使った電子デバイスは、磁気デバイスと呼ばれ、既に実用化されているものもありますが、多くは開発段階にとどまっています。

— その磁気デバイスの一つの磁気メモリが注目されています。磁気メモリのメリットとして、主流のメモリに比べて電力消費量を抑えられることが挙げられます。現在、世界全体の電力消費量がどんどん増えているため、電力を大きく消費する記憶デバイスの省電力化が求められています。磁気メモリは電源を切っても情報が消えず、その分、電力の消費を抑えることができるのです。また、磁気メモリは振動に強いので、自動車などに搭載することができ、放射線にも強いので、宇宙での利用に適している可能性もあります。

— 磁気メモリは新しいタイプのデバイスなのですね。

いえ、「磁気メモリ」と聞くと新しく感じるかもしれませんが、カセットテープは磁気を利用しています。昔は磁気で情報を保存していたんです。機器が小型化していく中で半導体に入れ替わっていききましたが、再び磁気を利用する流れに戻ってきました。

素子を柱状に並べた磁気メモリを開発

— 具体的にはどのような研究ですか。

メモリは、一つが数十ナノメートルの大きさの素子がたくさん集まってできています。世の中のほとんどのメモリは、一つの素子に「0」か「1」かの一つの情報を保存します。

USBメモリなどのフラッシュメモリも基本は一つの素子で一つの情報を保存します。最近では、一つの素子に情報を複数保存できますが、それに加えて素子を縦に並べることで容量を増やしています。大容量のデータを保存できているのは、この工夫のおかげです。

私が現在、取り組んでいるのは、磁石が柱状に連なった磁気メモリです。このタイプの磁気メモリはまだ開発されていません。

磁気メモリは一つの磁石が一つの情報を保存します。それぞれの情報は、各磁石内のS極からN極への向き(磁化の向き)で示されます。磁化の向きが上(↑)か下(↓)か、ということになります。一方が「0」、もう一方が「1」に相当するわけです。私が取り組む柱状の磁気メモリの場合、柱が多数の磁石を縦に並べた構造であり、柱一本つまり素子一つで多数の情報を保存できます。

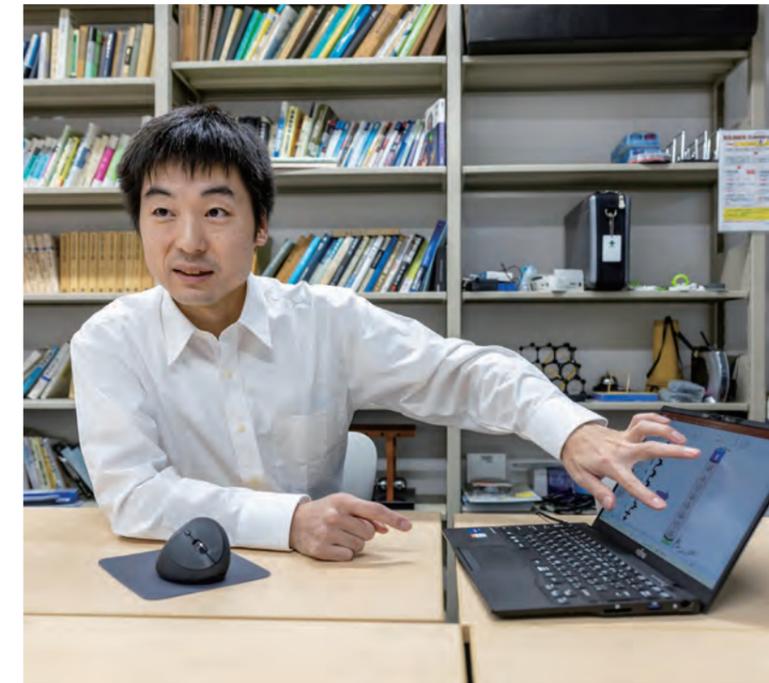
柱状の磁気メモリ自体は、従来から提唱されていましたが、私はその情報をどのようにコントロールするかを新たに提案しました。

— どのようにすれば制御できるのですか？

柱の上から下へ電流を流すだけです。

柱には、「↑ ↓ ↑ ↓」というような情報が保存されています。上から下へ電流を流すと「電流による磁壁移動」という現象が起きて、これらの矢印が全体的に上に動いていきます。

柱の一番上に別途磁石を設置することで、磁気抵抗効果と呼ばれる物理現象を用いて柱上端の磁化の向き(情報)を読み取ることができます。電流によって情報を柱の上側へ移動させながら、柱に記録された情報をすべて読み取るわけです。



Designing Electronic Devices Using Numerical Simulation

— Please tell us about your research in the laboratory.

In our "Theoretical Solid State Laboratory," we use numerical calculations and numerical simulators to develop, for example, devices using nanoscale electronic materials. "Devices" here mean "electronic components," such as memories and transistors used in smartphones.

My research theme is mainly nanoscale magnets. My research includes studies of how materials can be changed to produce strong magnets, and how magnets can be used to produce new electronic devices.

Electronic devices using magnets are called magnetic devices. Some magnetic devices have been realized, but many are still in the development phase.

— One such magnetic device, magnetic memory, is gaining attention.

One advantage of magnetic memory is the low electric power consumption compared with the memories predominantly used. Electric power consumption is increasing steadily all around the world these days. Therefore, there is a need to reduce the electric power consumption of storage devices, since they consume a lot. In magnetic memories, the stored information does not disappear even if the power supply is cut off. This characteristic can be utilized to reduce electric power consumption.

In addition, magnetic memories have vibration-resistant characteristics that make them suitable for installation in automobiles, and radiation-resistant characteristics that may make them suitable for use in outer space.

— So, a magnetic memory is a new type of device.

Well, no. It may sound new when you hear "magnetic memory," but magnetism was used in cassette tapes. In the past, magnetism was used to store information. Semiconductors have become predominant as the equipment size became smaller. However, use of magnetism is gaining attention again in recent trends.

■研究最前線

—情報の書き込みはどのようにするのですか？

情報の読み出し同様に電流を流すだけです。ただし、柱の下に横向きに磁化した磁石を設置します。私が提案したこの方法で素子の構造を単純にできました。

この磁石がない場合は、柱に電流を流して情報を上に移動させると、一番下に新たに「↓」が書き込まれ続けます。ところが、横向きの磁石があると、「↑↓↑」というように逆向きの矢印(磁化)が書き込まれるようになります。

では、任意の情報を書き込むにはどうするかというと、柱に流す電流のオンオフを細かく切り替えることで、パルス(電気信号において短時間に急激に変化する波)にし、電流が流れる時間間隔を制御することで書き込む情報を制御します。

例えば、最初に柱最下部の磁化が「↓」だった場合、電流を流すとちょっと上を向きませます。そのタイミングで電流をオフにすると、「↑」にはならず「↓」に戻ります。電流が流れている間には、情報は上に移動し続けるため、柱下部以外では情報が柱上部へ進みます。電流のオンオフを繰り返すと、柱下部の磁化の向きが「↓↓」になります。一方、電流をオフにせずに流し続けた場合には、前述のように柱最下部の磁化は「↑」になり、柱下部の磁化の向きが「↑↓」になります。つまり、短い間隔のパルス電流と、長い時間の電流とで書き込む情報をコントロールするわけです。

柱状の磁気メモリでは多数の情報を保存できるにもかかわらず、柱1本あたりの端子の数を2つに抑えられます。さらに、電流の大きさや向きを変える必要はないため、電流を制御する外部回路

も単純にできます。そうすることで構造が単純で大容量なメモリを開発できる提案をすることができました。

■シンプルな構造は開発にメリット

—構造が単純だと、いろいろなメリットがありそうですね。

フラッシュメモリの開発に携わっている知り合いが「端子が少なくなるのは開発者としてすごく助かる」と言っていました。磁気メモリはさまざまなメリットがあるのに開発が遅れているのは、端子の数が多くて制御や回路設計が難しいという背景があります。

メモリの開発競争で遅れを取ってしまっている日本でも、このメモリなら開発できる可能性があります。次世代のメモリの有力候補だと思っています。

—反響が大きかったようですね。

2023年9月に特許を出願し、2024年4月に論文発表しました。さまざまな研究機関から共同研究のお話をいただき、複数の産官学が協力してくれています。今、京都大学や名古屋大学などが実験に取り組んでいて、私は柱の部分や書き込み磁石がどのような材料だったらうまくいきやすいかなどを模索しています。

—今後の抱負をお聞かせください。

この磁気メモリの実現に向けて、関西大学を中心に盛り上げていきたい理想的です。全体的な目標としては、できるだけ物事を単純にして問題を解決したいですね。今、どんどん難しい物理現象を対象にしている傾向があるように思います。局所的に見ると性能は上がるのですが、応用からは遠のいてしまう。できるだけ単純な方法で問題を解決できるような提案をしていきたいと考えています。

■ Developed a Magnetic Memory That Has Elements Arranged in a Pillar Structure

— Please tell us about the details of the research.

A memory consists of many elements whose individual size is several tens of nanometers. Most of the memories used in society store a single piece of information, a "0" or "1," in a single element.

USB memories and other flash memories, in their basic form, also store a single piece of information in a single element. In recent years, it has become possible to store multiple pieces of information in a single element. In addition, vertical alignment of elements is becoming adopted, leading to an increase in capacity. These creative efforts have made it possible to save large-size data.

I am currently working on a magnetic memory consisting of magnets stacked in a pillar structure. This type of magnetic memory has not been developed yet.

In a magnetic memory, a single magnet stores a single piece of information. Each piece of information is represented by the direction from the S pole to the N pole in each magnet (direction of magnetization). The magnetization direction will be either up (↑) or down (↓). One direction will be regarded as "0," and the other will be regarded as "1." As for magnetic memory having a pillar structure, which I am working on, the structure consists of multiple magnets stacked vertically in a pillar. Due to this structure, multiple pieces of information can be stored in a single pillar, or in other words, in a single element.

The concept of a pillar-structured magnetic memory has been proposed in the past. My new proposition is how to control the information.

— How can the information be controlled?

Just by having electric current flow from the top to the bottom of the pillar. The pillar stores information in a form such as "↓↑↑↓." When a current is passed from the top to the bottom, a phenomenon called "current-induced movement of the magnetic domain wall" occurs, causing all of these arrows to move in the upper direction.

By placing a separate magnet at the top end of the pillar, the magnetization direction (information) at the pillar's top end can be read using a physical phenomenon called the magnetoresistive effect. All information recorded in the pillar can be read by using current to move the information to the upper end of the pillar.

— How do you write the information?

By passing a current, just like when reading the information. In this case, however, a magnet that is magnetized in the horizontal direction is installed at the bottom of the pillar. The element structure was simplified in my proposed method.

If this magnet is not present, "↓" will be newly and continuously recorded at the bottom end when current passes through the pillar to move the information upward. On the other hand, when a magnet (magnetized in the horizontal direction) is present, the arrow (magnetization) direction recorded in the pillar will alternate, such as "↓↑↓↑." So, to record the desired information, the current passed through the pillar can be switched on and off in a meticulous way to produce a pulse (electric signal wave that changes abruptly in a short time), and the time interval to make the current flow can be controlled. In this way, the information to be recorded is controlled.

If, for example, the initial magnetization direction at the pillar bottom end was "↓," passing a current will make the arrow point somewhat upwards. If the current is turned off at that timing, the direction will not become "↑." Instead, it will return to "↓." Because information will continuously move upward while the current is flowing, information will move to the upper part of the pillar at locations other than the bottom of the pillar. If the current is repeatedly turned on and off, the magnetization direction at the bottom of the pillar will be "↓↑." On the other hand, if the current is not turned off and made to flow continuously, the magnetization direction at the pillar bottom end will be "↑" as explained before, and the magnetization direction at the lower



▲研究室でゼミ生の指導にあたる本多准教授
Instructing students in his laboratory

part of the pillar will be "↓↑." In summary, the information recorded is controlled using short-interval pulse current and long-duration current.

Although the pillar-structured magnetic memory is capable of saving multiple pieces of information, only two terminals are required for each pillar. Furthermore, since the magnitude and direction of the current need not be changed, the external circuit for current control can be simplified. In this way, we were able to propose the possibility of developing a large-capacity memory that has a simple structure.

■ A Simple Structure Is Advantageous for Development

— There seems to be many advantages if the structure is simple.

A friend who works in development of flash memories once said, "As a developer, it is very helpful if there are fewer terminals." Even though magnetic memories have many advantages, their development has not progressed because many terminals are required and because of the difficulty of control and circuit design.

Although Japan is lagging behind in the competition for developing memories, there is a possibility that this type of memory will be developed. I think this memory is a hopeful candidate for next-generation memories.

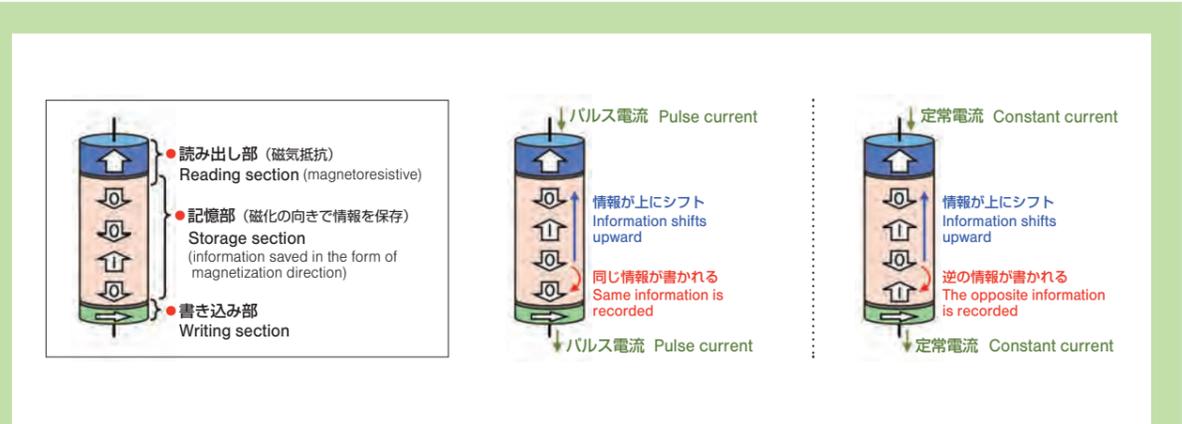
— It seems that the proposal caused a sensation.

The patent application was filed in September 2023, and the paper was published in April 2024. We received proposals for joint research from various research institutions, and are blessed with cooperation from multiple entities of the industrial, academic, and governmental sectors. Kyoto University, Nagoya University, and others are now conducting experiments, and I am searching, for example, for the best type of pillar section material and writing magnet material that make the memory structure work well.

— What are your own upcoming goals?

It would be ideal if Kansai University could be the center of the movement for realizing this magnetic memory.

As my overall goal, I want to solve problems by simplifying matters to the greatest extent possible. Nowadays, it seems that physical phenomena that are selected as a research subject are becoming increasingly difficult. Although performance can be improved locally, applying the results has become more difficult. I would like to make proposals that can solve problems using a method that is as simple as possible.



柱状磁気メモリ4ビット構造と動作の例
白矢印は磁化の向き(S極→N極)

柱に下向きに電流を流すことで、記録されている情報が柱上側へシフトする。電流がパルス電流の場合には、柱下端に最下位と同じ情報が書き込まれ、定常電流の場合には最下位と逆の情報が書き込まれる。柱を長くすることで記録可能な情報数を増やすことができる。

Example of pillar magnetic memory with 4-bit structure and its operation.
White arrows indicate direction of magnetization (S pole to N pole)

By passing a current downward through the pillar, the recorded information shifts to the top of the pillar. If the current is pulsed, the same information as at the bottom of the pillar is written at the bottom of the pillar; if the current is constant, the opposite information is written at the bottom of the pillar. The amount of information that can be recorded can be increased by lengthening the pillars.

◎ 関西大学協賛の「大阪マラソン2025」開催

関大生ランナーやボランティア、沿道応援に約500人が大活躍



2月24日、今年で13回目となる「大阪マラソン2025」(大阪府・大阪市・大阪陸上競技協会主催)が開催された。

“みんなでかける虹。”をスローガンに掲げ、公募により選出されたフルマラソンと720(なになに)マラソンのランナー約3万4,000人が疾走する一大イベントとなった。

当日、ランナーたちは大阪府庁前をスタート。道頓堀、京セラドーム、あべのハルカスなど大阪の名所を通過し、ゴールの大阪城公園を目指して駆け抜けた。沿道には110万人もの人々が詰め掛け、熱いエールでランナーを後押しした。

関西大学は第1回目からオフィシャルスポンサーとして大会運営に協力し、地元「大阪」の盛り上げに貢献してきた。今大会は、オリジナルウェアを着用した関大ランナー40人をはじめ、給水ボランティアとして学生ら約230人が参加。沿道では「ランナー盛上げ隊！」として約150人が集結し、関西大学応援団や混声合唱団「葎」、jazz研究会、吹奏楽サークルBis、カイザーズクラブチアダンスチームによる多彩で力強いパフォーマンスが大会に華を添えた。



また22日、23日にはインテックス大阪で「大阪マラソンEXPO 2025」が開催され、本学ブースではフォトスポットを設置し、UHA味覚糖株式会社とのコラボ商品「関大コロロ」のプレゼント企画を実施。さらに関大万博部が産学連携で開発した「関大クラフトコーラ『関杯』」や、社会学部・池内ゼミが吹田市と共同開発した「吹田くわいごはん」、「吹田くわいキャンディ」を販売したほか、マス・コミュニケーション学部の学生がデザインしたオリジナルキャラクター「かんだこ」のタトゥーシールを配布するなど、多くのランナーに本学の取り組みを紹介した。



◎ 第33回「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」授与式を挙行

2024年度に活躍した関大アスリートの功績を称えて



▲受賞学生を代表して高橋智幸学長から賞状を授与される西田カビーリア桜良さん(左)

3月6日、千里山キャンパスにて、第33回「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」授与式が執り行われた。

本賞は、世界的に活躍したオリンピックであり関西大学OBの大島鎌吉氏の偉業を称え、関西大学が1988年に創設した文化表彰制度で、本学のみならず日本におけるスポーツ文化の振興及び推進に資することを目的とする。

本学学生個人の部では、プロ野球中日ドラゴンズにドラフト1位で指名され、侍ジャパンシリーズ2024で日本代表に選出された野球部の金丸夢斗さん(文学部4年次生)、パリオリンピック・セーリング混合ナクラ17級に出場した西田カビーリア桜良さん(総合情報学部4年次生)ら18人が受賞。団体の部では、全日本学生賞典障害馬術競技大会 障害飛越競技で優勝した馬術部が受賞した。

JOINT PROGRAM ■ 社会貢献・連携事業 / 産官学連携

◎ 第29回関西大学先端科学技術シンポジウムを開催

フィールドを超越した最先端の研究成果を披露



▲(左)国立大学法人香川大学副学長 和田健司氏 (右)特別講演の様子

1月23日と24日、第29回関西大学先端科学技術シンポジウムが千里山キャンパスにて開催された。

本シンポジウムは、関西大学先端科学技術推進機構の研究者が取り組む多彩な研究成果を取りまとめ、広く社会や企業、産業界へ発表する学術交流イベント。今年は「フィールドを超越する先端科学技術」をメインテーマに据え、国立大学法人香川大学副学長で医学部教授の和田健司氏による特別講演「分野を跳躍する

個別触媒技術～医学に関わる化学から水素エネルギーまで～」にて開幕。学問の領域や国境を越えた幅広い共同研究の実例や経緯を解説した。

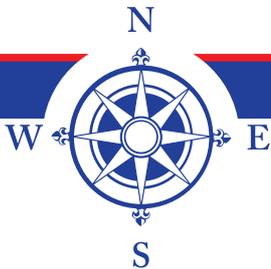
また、各会場では2日間で16件の招待講演、37件の一般講演、86件のポスターセッションが行われ、民間企業の参加者と本学学生が熱い議論を展開。2日間の参加者数は延べ850人以上となり、盛況のうちに幕を閉じた。

招待講演者の株式会社センショー グローバルファストホールディングスが被災地で温かい食事を提供した「すき家のキッチンカー」を会場前に展示▶



KANDAI

■ 関大ニュース



NEWS

吹田市立第一中学校区・豊津中学校区の小中学生が大学の課外活動クラブに1日体験入部



クラブ1日体験入部の様子(弓道部)



豊津中学校区の参加者たち

地域教育協議会とスポーツ振興グループの連携による1日体験入部が千里山キャンパスで開催され、12月1日に吹田市立第一中学校区の小中学生約200人、1月26日には豊津中学校区の小中学生約140人が参加した。



演舞を披露する応援団

各日、参加者たちは希望するクラブに1日限定で入部し、クラブやサークル活動を体験。大学生に教えてもらいながら、生き生きとした表情でスポーツや楽器演奏を楽しんだ。また、関西大学応援団による演舞披露も行われ、その迫りに圧倒される一幕もあった。

大阪・関西万博の会場で「夢洲関大Days」を開催

関西大学は2025年大阪・関西万博の会場において、「夢洲関大Days」と題して催事・パビリオンに参加する。「大阪ヘルスケアパビリオン」や「ウーマンズパビリオン」、「電力館可能性のタマゴたち」、「フューチャーライフヴィレッジ(Team Expoパビリオン)」などにおいて、100年後の未来をテーマにした舞台演劇や、真のダイバーシティについて考えるシンポジウム、共創チャレンジの成果発表などを実施するほか、各種学生団体によるエネルギーパフォーマンスなど、10以上のイベントを夢洲で繰り広げ、大阪・関西万博の会場を盛り上げる。

●大阪ヘルスケアパビリオン(提供: (公社)大阪パビリオン)



●フューチャーライフヴィレッジ(Team Expoパビリオン)



「関大みらい〜ねフェスタ」全イベントが終了

吹田みらいキャンパスが地域のハブ拠点として、「地域住民から愛され頼られるようなかけがえのない存在として認知されること」を目指し始動した「関大みらい〜ねフェスタプロジェクト」では、2024年2月より計12回のイベントを開催し、地域との交流を深める機会を創出してきた。3月20日にはその集大成として「関大みらい〜ねフェスタ感謝祭“つながり”」を開催。来場者数は延べ1,500人を超え、4月に控えた吹田みらいキャンパスのフルオープンに向け、近隣住民の方々から多くの温かい応援メッセージが寄せられた。



▲スタンブラリーイベント(7月)



▲元阪神タイガース岩田稔氏による講演会(11月)



▲クリスマスイベント(12月)



◀ 関大みらい〜ねフェスタのメンバー

化粧まわしを贈呈した安青錦関が躍進 体育会相撲部との稽古に参加

体育会相撲部は11月5日、ウクライナの戦火を逃れて来日し、関西大学で稽古していた安青錦関(ダニエロ・ヤブグシシンさん)の十両昇進を祝い、スクールカラーの紫紺色に校章の刺繍をあしらった化粧まわしを贈呈した。安青錦関は本学での練習生時代を経て、安治川部屋に入門。2023年に初土俵以来、好成績を続け、九月場所では幕下で6勝1敗の成績を収めて新十両に昇進が決まった。さらに十両でも十一月場所で10勝5敗、一月場所で12勝3敗の好成績を挙げて2月25日に発表された新番付では新入幕。歴代1位タイのスピード昇進となった。2月28日には千里山キャンパスの相撲部道場で稽古が行われ、安青錦関も参加。部員たちと共に汗を流した。



▲部員の稽古の相手をする安青錦関(右)

●ビジネスデータサイエンス学部開設記念 客員教授講演会を開催 ビジネスに求められるデータサイエンスとは

2025年4月のビジネスデータサイエンス学部開設を記念して、本学客員教授による講演会が、2月26日に千里山キャンパスで開催された。第一部では、株式会社ナシオの原正浩氏が「卸売業のリテールサポート・マーケティング」をテーマに、リテール業界におけるデータ活用について紹介。第二部では、生活協同組合コープさっぽろの大見英明氏が「逆境を味方にするコープさっぽろの経営戦略」と題して、事実上の経営破綻に陥ったコープさっぽろを再生させたプロセスや、経営戦略におけるデータ活用について解説した。

両氏の講演の後にはパネルディスカッションが行われ、AI・データ活用の重要性や大学教育の課題について語り合った。



▲パネルディスカッションの様子 大見英明氏(左)、原正浩氏(右)

KANSAI UNIVERSITY SOCIAL MEDIA

